

## 当校の教員が広島土砂災害の被災地にこころのケア要員として参加

日本赤十字社岡山県支部は広島県土砂災害の被災地に救護班（第1班：8月24～26日、第2班：8月31日～9月2日）を派遣しました。当校教員の石倉愛実専任教師も第2班の心のケア要員として救護に参加しました。第2班は医師1名、看護師2名、主事2名、こころのケア要員1名、災害対策本部要員1名の計7名です。活動は広島市安佐北区、南区内の避難所での巡回診療、こころのケアの実施でした。災害時は怪我や病気を治す事も大切ですが、こころのケア（そばにいる、熱心に話を聴く、その人の身になって感じる、できることをすることで、心理的支援をしていく）もとても大切なんです。

日中、避難所には被災者の方々はあまりおられませんが、孤独や恐怖、不安、いら立ちを感じておられる様子が伝わってきました。積極的傾聴に努めたつもりですが、少しでも安心していただけたら幸いです。少しでも早くお元気になられることを祈っています。



被災者の方のお話を聴いている様子  
写真中央が石倉愛実専任教師



出動時の救護班第2班の様子



同じ救護班メンバーの看護師長（右）と、救急看護認定看護師である男性看護師（右から3番目）とともに、他県赤十字救護班員より申し送りを受けている様子